

急成長するグリーンボンド市場 ～脱炭素時代の投資～

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

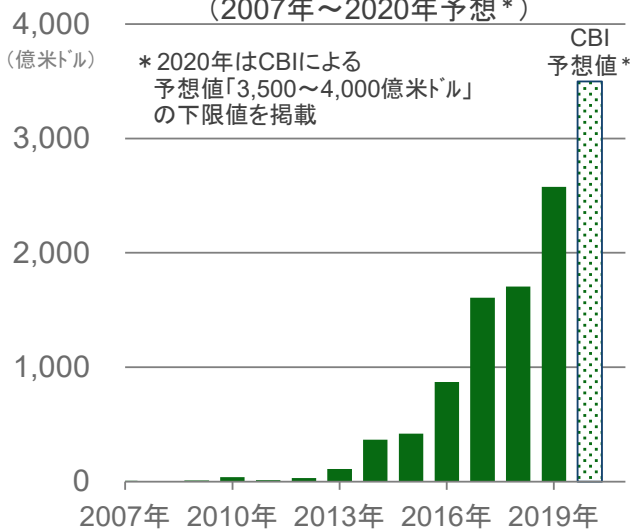
近年、グリーンボンド市場が急成長しています。グリーンボンドとは、環境事業に取り組むための資金調達を目的とした債券のことです。同市場は、世界的に地球温暖化による気候変動が問題となっていることや、ESG投資(環境・社会・企業統治を考慮した企業などへの投資)が浸透したことなどを背景に、社債やABS(資産担保証券)などを中心に広まりました。2015年12月のパリ協定(2020年以降の温暖化対策を定めた国際協定)採択以降に、国債が発行されるようになると、市場の成長に弾みがつく状況となりました。

パリ協定が採択された翌年にあたる2016年に、ポーランドが世界初のグリーン国債を発行しました。その後、欧州を中心に発行国は増加し、グリーン国債の発行額は、年間発行額全体の10%強にあたる約258億米ドルまでとなりました(2019年末現在、CBIによるソブリン債計)。国がグリーン国債を発行する目的は、「多様な投資家層の取り込み」といったものだけでなく、「国が気候変動対策に取り組むことを内外に示す」ということも挙げられます。例えば、2020年の年央に約100億ユーロ(約1兆2,000億円(1ユーロ=120円で換算))のグリーン国債の発行を予定しているドイツは、二酸化炭素排出量の削減に向けた投資を促進しており、調達資金を活用することを発表しています。こうしたことなどから、パリ協定の本格運用がはじまる2020年以降も、発行国が増えると思われます。一方で、パリ協定から離脱を表明した米国のグリーン国債の発行は、いまのところ期待できません。しかし、大手IT企業をはじめ米国企業はすでにグリーンボンドを発行しており、市場拡大につながっています。

グリーンボンドの発行には、ICMA(国際資本市場協会)などが定める一定の基準を満たすことが必要とされており、発行体は調達資金の用途などを開示する必要があります。市場の整備も進み、流動性もさらに高まることが期待されるグリーンボンド市場は、脱炭素時代の注目市場といえるのではないのでしょうか。

世界のグリーンボンドの年間発行額

(2007年～2020年予想*)



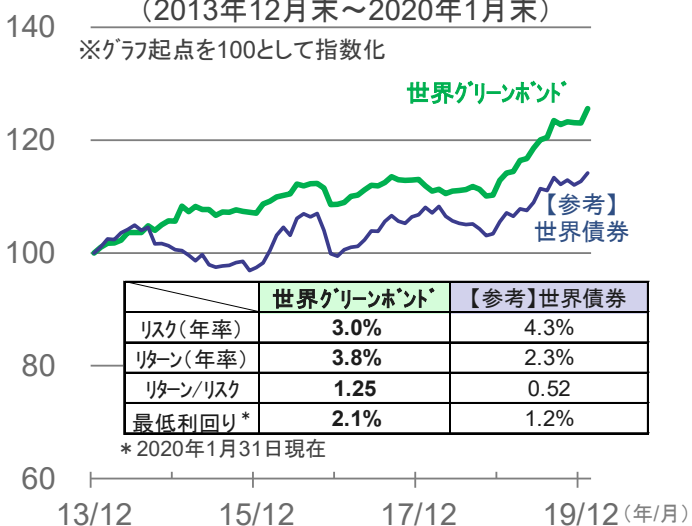
※グリーンローンの組成額も含む

(出所: Climate Bonds Initiative(CBI))

世界のグリーンボンドのリターン推移

(2013年12月末～2020年1月末)

※グラフ起点を100として指数化



※使用した指数は以下のとおりで、いずれも米ドルベースのトータルリターンを用いています。世界グリーンボンド: Bloomberg Barclays MSCI Global Green Bond Index、世界債券: Bloomberg Barclays Global-Aggregate Index
※リターンは月次リターンの平均を、リスクは月次リターンの標準偏差を、年率換算(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。